

# 令和3年度事業計画

## 1. 基本方針

昨年策定した中期計画に基づき本年の基本方針を定める。

町の人口は、9,000人を割り込もうとしている。そのうえ、高齢化率が35.5%になり高齢化が益々進み、生産人口が不足しているのが現状である。老年人口は増えているが、雇用対策の変化などでシルバー人材センターに加入する人がいないのがこれからの大きな課題である。

事業実績は、近年は着実に伸びていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度では、約1割の減収となった。一日も早く新型コロナが収束し、各種イベント等が再開できることを望むところである。あわせて、新規の事業所の開拓、業務の開拓にも積極的に取り組む必要がある。

当センターは、高齢者に対する就業機会の提供を通して高齢者の生きがいづくり、活力ある地域づくりに努め、中でも平成27年にオープンしたシルバーショップ湖畔は、会員の努力により、おいしくヘルシーな弁当の提供をするなど町内外の人に喜んでいただいているが、事業実績は満足のいくものではありません。そこへ新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたことで、さらに厳しい状況が心配されるところである。今後は、ヘルシーな弁当を基本としながら、簡単で便利な店屋物などの定食以外の食事の提供や、弁当の注文取りなどの工夫が必要でないかと思う。

派遣事業は、若干の新型コロナウイルス感染拡大の影響はありましたが、9事業所の受注で月平均100万円前後の契約額を維持できている。今後も、ガイドラインに沿った派遣業務の推進を目指したいと考えている。

また、町は4月から「地域あいあいポイント」制度を導入し、地域づくり、健康づくりを応援する取り組みを始める予定であり当センターも、「会員になると3ポイント」を、売りとして町と協力して地域づくりに貢献する所存である。

当センターでは、新型コロナウイルス感染拡大が落ち着けば「自主・自立、共働・共助」の精神で本来の業務に取り組めると確信しており、地域社会に期待されるシルバー人材センターとして、会員・役職員一丸となり、一生懸命取り組みたい。

## 2. 基本計画

次の5項目の基本計画で事業を推進する。

- (1) 会員拡大の推進
- (2) 就業機会の確保・拡大の推進
- (3) 安全・適正就業の推進
- (4) 財政基盤の確立
- (5) 新規事業の取り組み

## 3 事業実施計画

### (1) 会員拡大の推進

#### 【現状と課題】

会員数は、令和3年2月末現在230名であり、平成25年の246名が最大数でそれ以後は230名から240名前後を保っている。

呼びかけ等で、安定した数値を維持しているが、業務の多様化や、適正就業への積極的な取り組みをしていくうえで新規会員の減少や高齢に伴う退会者の増大が懸念されるところである。

令和2年度12月末現在の会員229名の内、70歳以上が約8割を占め、平均年齢も約74.0歳と高い数値となっている。

シルバー人材センターの、会員確保の課題である老年人口は、2020年で増加傾向は落ち着きを見せているが、その後は減少傾向にある。会員を確保しようとしても老年人口の減少で、会員確保が困難な状況になることが予想される。

会員の高齢化や希望職種が少ないことによる退会の防止対策を取るとともに、会員が各種業務に対応できるよう講習会や研修会を開催するなどの資質向上を図ることや、新規の会員の拡大が急務となっている。

## 【今後の対応策】

新規会員の掘り起こしを進めるとともに、退会者の引き留め策を検討するため、次のことに重点的に取り組む。

- ① 広報誌「シルバーみはま」の発刊及び会員募集のチラシの全戸配布
- ② ホームページの活用による情報提供
- ③ ケーブルテレビ、MM ネットの活用
- ④ 入会説明会の実施（随時）
- ⑤ 「会員一人一人が仲間を増やす」運動を積極的に推進
- ⑥ 会員増強推進員の配置など組織的な活動を行う
- ⑦ 普及啓発活動の積極的な展開により会員をはじめ広く利用者に親しみやすい魅力あるセンターのイメージアップ活動を行う  
（シルバーまつり会場でのチラシ等配布による周知）
- ⑧ 企業への受注獲得活動に併せ、退職予定者の勧誘活動を展開する
- ⑨ 地域の高齢者が集まる場所や、地域のイベント等においてセンターの広報宣伝や会員獲得に向けた勧誘活動を行う
- ⑩ 会員の年齢や体力に合った就業機会を提供するとともに、ボランティアやサークル活動を通じて仲間づくりを活発化させることで退会会員の減少に努める
- ⑪ 高齢者が気軽に利用できる交流の場を設ける
- ⑫ 独自事業であるシルバーショップ「湖畔」の実績を伸ばすことで、会員拡大に結び付ける
- ⑬ 希望の多い職種である管理、事務、室内作業を重点とした募集パンフレットを事業所へ配布し就業場所を確保することで、退会防止、新規会員の確保に努める
- ⑭ 入会説明会等におけるニーズに合う就業の開拓を行う
- ⑮ 拡大が期待される高齢者世帯の介護支援・家事援助、共働き家庭への子育て支援など女性会員の活躍が期待される就業の確保と女性会員の確保に努める
- ⑯ 一般町民を巻き込んだ講習会（草刈・剪定・障子張り替え等）を開催し会員を確保する
- ⑰ 夫婦での入会を促進し、夫婦会員の会費の減免措置を検討する

## (2) 就業機会の確保・拡大の推進

### 【現状と課題】

契約金額は、順調に推移してきたが、令和元年度からの新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け対前年の90%ほどの実績となった。これは、イベント等の中止などによる業務の減少が大きな要因と考えられる。

派遣事業は、6事業所から9事業所に増え、月額で約100万円の事業費になった。

独自事業である「シルバーショップ湖畔」の事業費は1月末現在で、3,500千円で昨年の実績を下回ることが予想される。

公共からの発注は、民間圧迫のこともありますので現状の40%前後が限界でありますので、新しい事業所の発掘や、販路の拡大等に努めなければならない。

### 【今後の対応策】

就業機会の確保のため、既存事業所のほかに新規事業所の発掘や、販路の拡大をするなど次のとおり取組みを進める。

- ① 町との連携の強化及び公共事業の受託確保に努める
- ② 民間事業所、一般家庭への受注拡大に努める
- ③ 会員の知識や特技を生かした独自事業の開発に努める
- ④ 就業機会の確保・拡大を目指し、講習会等を開催するなど、会員の技能向上と発注者の満足度を向上させる
- ⑤ 会員のスキルアップのための研修会を開催する
- ⑥ 長時間就業、短時間就業、ローテーション就業等、会員のニーズが得られるよう就業を開拓、提案する

### (3) 安全・適正就業の推進

#### 【現状と課題】

シルバー就業における事故の発生率は、一般企業と比較するとかなり高い確率で発生しており、当センターでも定期的に作業現場の安全パトロールを実施するなど、事故発生ゼロを目標に努力してきました。しかしながら、昨年、残念なことですが重篤事故が起きてしまいました。就業後の交通事故で会員が死亡という大変残念なことでした。ほかにも、草刈り機による裂傷、転倒事故が2件発生しました。これらの事故は、会員の認識不足や、ちょっとした油断が事故発生の大きな要因と思われる。

適正就業につきましては、「適正就業ガイドライン」に基づき、あらゆる機会を活用して会員や発注者に周知するよう努めているところである。

今後も、事故発生ゼロ、適正な就業に創意工夫を凝らし、安全・適正就業を推進していかねばなりません。

#### 【今後の対応策】

安全・適正就業部会、安全委員会を中心として、安全管理および適正就業の推進を図る。

##### ① 安全・適正就業推進体制の構築

- ア. 安全・適正就業部会を中心とした推進体制の構築
- イ. 安全・適正就業パトロールの実施
- ウ. 適正就業ガイドラインに沿った就業の推進

##### ② 安全・適正就業講習会及び研修会の開催等

- ア. 安全・適正就業に関する講習会及び研修会の実施
- イ. 交通安全に関する講習会等の実施
- ウ. 作業機械等取り扱いに関する講習会等の実施

##### ③ 事故防止対策の推進

- ア. 作業別安全就業基準の会員等への周知徹底
- イ. 作業にかかる安全保護具の着用及び機器等の整備の励行
- ウ. 事故の状況把握、問題点の分析、改善方法等の対策の充実
- エ. シルバー保険制度の周知
- オ. 班長会の随時開催と充実

- ④ 会員の健康管理
  - ア. 会員の健康状態の把握
  - イ. 健康診断等の受診の推進
  - ウ. 健康に関する講座の実施
  
- ⑤ 安全・適正就業の普及啓発の促進
  - ア. 安全意識を高めること及び適正就業の啓発のためのチラシ等による呼びかけの実施

## (4) 財政基盤の確立

### 【現状と課題】

国は、成長戦略実行計画などあらゆる手段を講じている。また、補助金については微増ではあるが確保されているのが現状である。

補助金については地方自治体の裏付けが必要であり、どの地方自治体も財政状況は厳しく、地方自治体からの補助金の増額は困難が予想される。このことから、厳しい状況下の中で地域社会のニーズに応えるため「魅力あるシルバー人材センター」となるよう関係行政機関及び事業主等との連携を強化し事業を展開することが求められている。そのためにも、安定した自主財源の確保が課題であります。

### 【今後の対応策】

財政基盤の確立と自主財源確保の推進を図る

- ① 町の補助金の維持継続と確保
- ② 公共事業、民間事業所、一般個人の契約額を増やすとともに、派遣事業の契約増に努める
- ③ 消費税 10%引き上げに伴う、インボイス制度施行への対応の検討
- ④ 自主財源確保のため事務費の引き上げ時期を検討する
- ⑤ 消費税およびシルバー保険料増額に伴う会費の検討
- ⑥ 事務局運営体制の合理化及び効率化

## (5) 新規事業等の取組み

### 【現状と課題】

当センターでは、平成 27 年に取り組んだ「シルバーショップ湖畔」の運営事業が唯一の独自事業になる。ヘルシー弁当など町内外の人たちに評判も良く定着している事業ではあるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等で現状は大変厳しい状況である。これからは、メニューに店屋物の追加や、弁当の注文取りなど積極的な取組みが必要である。

家事援助サービス等を含めた介護予防・日常生活支援総合事業については、町でポイント制度の導入を始めるということで当センターも参画団体として予定していますが、業務への移行となると難しい状況である。

独自事業への取組みは、会員の知識や経験、特技を生かすとともに会員の親睦を図るうえで推進していかなければならない事業である。

会員、役員一丸となり、知恵を出し合って積極的に検討する必要がある。

### 【今後の対応策】

会員の経験や特技を生かし、会員の増強を図るため新規事業等への取組みが必要である。

#### ① 地域貢献活動（ボランティア活動）・健康づくり活動への参画

##### ア. ポイント制度の導入

○家事援助サービスの拡大の検討

室内清掃、洗濯、買い物、食事等

#### ② 独自事業の計画・推進

##### ア. 会員の創意工夫と特技を生かした事業の推進

○シルバーショップ「湖畔」の充実

○空き家管理・・・家屋、庭、お墓の管理等

○シルバー農園

○剪定くずチップ化事業